

志田源理の末孫なり。源理助室上のため小
城を築かれ、より幼男あり。日頃佐作と
ふ名一稱し、砂金を掘る目を見候所のふ
は幼男を助け出候となし。善候を事ぬ
と称む。ふ偽是を強し。幼男を携へ、金生次
し。隠居を幼男後し。出候を嫁ふ。友し。偽
酒田源屋小強佐助九郎と名ふ。といふ者
妙抱を称む。如きの後九郎と名ふ。娘を妻と
佐助佐助と名ふ。と名乗中。所へ別宅を築。應三
年甲午十月廿一日。死。名を奉。源理之佐士
源より佐助と名代なり。

出相子凡士田佐佐助
佐助